

---

# そして少女は自分だけの世界から飛び出した

minami

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

そして少女は自分だけの世界から飛び出した

### 【Nコード】

N5453BA

### 【作者名】

minami

### 【あらすじ】

お母さんが言っていた、自分を知ってくれる人や知ってくれる人を知ることにはすばらしいって。。。

「この円が私の世界です。だから、入らないでください」  
少女は木の枝で大きな丸い円を描いた。そして、少女は一人空を見つめた。青い青い空を。  
少年はずっと少女を見つめた。少年はどんな思いで少女を見つめているのだろう。  
少年は少女のことが気になった。

一歩、少女に近づく。  
「こないで!!」  
少女は怒った。  
「円の中には入ってないよ?」  
「それでもよ!どうせくるんでしょ!?!こないで!」  
少女はその場にあった小さな石を投げた。少年の顔に当たる。  
「なんで来ちゃいけないの?」  
「だって、私はあなたのことを知らないもの」

二歩、少女に近づく。  
「そんな円の中に入れてもつまらないよ」  
「そんなことないわ!」  
少女は鼻を高くして言った。  
「この丸の中にいる限り私は安全なの!何にも襲われない!」

三歩、少女に近づく。  
少女と少年の距離は大分短い。  
少年は足で線を消し、円の中に入る。  
「ああ、やめてよ!!!入ってこないで!」  
「僕も入れてよ」

「ダメよ！知らない人は入れないの！」

少女は少年をトン、と押しして円から出す。そして、また木の枝で消えた部分を直す。

少年は思いついた。

「じゃあ僕のことを知ってよ」

少年の一言を聞いた瞬間、少女の顔が歪んだ。

「嫌よ。知らないものを知るなんて怖いわ」

少女は俯いた。そして、ぽつぽつと、綺麗な涙を流した。

「円の中に出るのも怖いわ。だって、きっと怖いものがたくさんあるから」

少年はもう一回線を消し、円の中に入った。

「確かに、円の外は怖いものはたくさんあるよ」

少年は泣いている少女の涙を拭いてあげる。

「でも、楽しいものや綺麗なものがたくさんあるよ。君が知らない、ずーっといいものが」

「だけど、知らないものを知るなんて怖いわ」

また少女は涙を流し、いやだいやだと首を振る。

そんな少女に少年は にっこり笑った。

「一人で知ろうとするから怖いんだよ！皆で知れば怖くない！」

「皆で知れば、怖くないの・・・？」

少女は泣き顔で少年に問う。

「うーん・・・分からない」

少女は驚き、一步下がる。

「それも知らなきゃ！」

少年は少女の温かい手を掴んだ。

「僕も一緒に知る！君の知らないことを！君のことも！」

その瞬間地面から水が溢れる。そして、少女の描いた円が綺麗に消えた。

少年と少女は見つめあう。

「行こ！」

少年は少女の手を掴んだまま走った。

少女は微笑んだ。

「知りたい！いろいろなことを！あなたのことも！」

END

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5453ba/>

---

そして少女は自分だけの世界から飛び出した

2012年1月14日23時52分発行